

エリアとくらし

第 24 号 2016 年 12 月

発行：社会福祉法人

時津町手をつなぐ育成会

西彼杵郡時津町西時津郷 1156

TEL：095-882-7585

<http://www.togitsu-ikuseikai.jp>

育成会運動会

10/9(日)

時津 B&G 体育館



チームで協力して
借り物競争♪

パンは
口で取って(笑)!

チーム対抗★
着せ替え競技

予想外に白熱した
アイス取り(笑)

来賓の皆様も
ご参加下さいました

今年もボール転がしや借り物競争、花形競技のチーム対抗リレーなど、大変盛り上がりしました。今回は新しい競技も多く、○×ゲームやアイス取りゲームなど、みんなが同時に参加できるものがあって、とても楽しかったです。

それぞれの個性が出ていた障害物競走。ペットボトルに割り箸を出し入れするところでは、ボトルを振って出したり、一本一本を丁寧に入れたり、みなさんの個性が出ていて、楽しく見ていました。

私も参加させていただき、久しぶりの運動に翌日は筋肉痛でした。

利用者、参加者のみなさん、お疲れさまでした。今回の開催に携わって下さった職員のみなさん、委員のみなさん、ありがとうございました。(畠山)

九州地区手をつなぐ育成会長崎県大会～

8/27(土)28(日)

長崎ブリックホール

第 56 回大会が開催され、本会より長年にわたり育成会活動に御尽力を頂いた久保田勝英さんが会長表彰を受賞されました。ご功績に対し心より感謝申し上げます。

開会あいさつの中で全国手をつなぐ育成会連合会の久保厚子会長が 7 月 26 日に神奈川県相模原市の障害者施設で起こった事件で不安になっている本人や保護者に向けて「障害のある人もない人も私達はかけがえのない命を守り育てていかなければならない。みんなが幸せに生きられるようにしていく。大丈夫、みんなで手をつなぎましょう」と言われた言葉に感動しました。(杉本)



表彰を受ける久保田さん(中央)

とぎつ夏まつり

8/28(日) とぎつウォーターフロント

今年も(?)お天気に恵まれず、開催されるのかわからないくらいの夏まつりスタートでした。

午前中は雨のため人がおらずさみしいものでしたが、お昼過ぎくらいから賑やかになり夕方からは花火目当ての人で大混雑でした。

祭りの定番、唐揚げ、ビール也大盛況で利用者のみんなも汗だくになりながら声を出して売ってくれました。おかげで完売です!!

育成会ブースもお父様、お母様、ご家族のがんばりでまずまずの売れ行きでした。前準備の献品、値札付け、当日の雨の中の準備のおかげです。毎年何かと大変ですが、この日は会員のみなさまと交流できるのも楽しみです。それと、後日行われた打ち上げ、楽しかったです。(安野)

なつまつりとってもたのしかったです。はんぱいもしました。なつまつりでたこやきからあげをたべました。おいしかったです。よるにはなびをみました。きれかったです。らいねんもなつまつりはなびみるのがたのしみです。おもいでになりました。(安野友里)



←育成会ブースでは
学生ボランティア
さんも大活躍
でした

エリアブースでは
利用者さんも
販売のお手伝いを
がんばりました→



施設見学会

9/30(金) エコパーク論所原

(福)コスモス会が南島原市の指定管理事業を請け負い、B型事業所として運営されているとのことで、北有馬町へ見学に行ってきました。

主な業務内容は、施設内の管理(園内やキャビンの清掃・動物の世話・レストラン運営)、木工作业やバイオマス燃料づくりなど、多岐にわたります。施設長の薄田さんの案内で、広い園内をくまなく見せていただきました。

広いのに清掃が行き届いていることに驚きました。丁寧に時間をかけて指導すれば、利用者さんも除草作業や薪割りなど、出来るようになります、とのこと。

キャンプ場では大自然に囲まれた清潔なキャビンで非日常的な体験が出来る魅力に、県内外からの予約がいっぱいというもうなずけます。

このまま順調に集客し、指定管理事業収入も減額してもらい、将来的にはコスモス会単体の事業として運営していければ、と考えられているそうです。

「みんなでまた行ってみたいね」が参加者のみなさんから多く聞かれました。(三岳・山下・吉本…寄せられた感想をもとに編集しています)



いもほり

11/1(火) エリアの畑



今日は待ちに待った、芋ほり! 今年の夏はあまり雨が降らず、どうなるかと心配しましたが、利用者の方は、僕が、私が、一番大きいお芋を〜♪と、真剣な表情で掘りはじめました。

少しお芋が顔を出すと更に真剣な表情で、楽しむというより、芋ほり大会!! のようでした。

掘ったお芋を片手に、嬉しそうな表情で、見てみて〜♪お芋とれたよ〜♪と毎回報告する方や、なかなか大きいお芋に

当たらず、悔しそうな表情の方など様々でしたが、利用者の方に販売できる量は掘り出すことができたので一安心でした。

翌週の(水)、みんなで掘ったお芋を使って、料理長がスイートポテトをおやつに出してくれました! みんな美味しい! おいしい♪と食べました。

芋ほり前の草むしりに参加して下さった保護者のみなさま、ありがとうございました。(西川)



エリア21研修旅行 9/30(金)～10/1(土)

佐世保市・大村市



1日目はハウステンボスがメインの行程となっており、ハウステンボスに到着後、ハロウィーンの飾りの前で集合写真を撮影し、各班に分かれて班行動となりました。

園内のフリーパスチケットが配布され、目的地を目指してカナルクルーザーで移動する班もいれば、そのまま徒歩で移動したりと、思い思いに散策しました。ヨーロッパの街並みを楽しみながら、お土産店でのショッピングや華やかなハウステンボス歌劇団のショーを楽しんでいたようです。

ハウステンボス散策後は宿に移動し、宴会前に大浴場で疲れと汗を流しました。宴会では、天井が高く広々とした空間にみなさん少し緊張した様子でしたが、いざお楽しみのカラオケタイムが始まると、舞台上に上ってノリノリで歌って踊って楽しんでいました。料理はコース料理形式でおいしくいただきました。男性には少し物足りなかったでしょうか(^ω^)

2日目はバイキングの朝食でお腹を満ち、パールシーリゾートを散策しました。天気も良く九十九島観光船では船上のデッキに心地よい風が吹き、間近で九十九島の景色を楽しむ事ができました。

昼食後は最後の目的地の夢ファーム大村シュシュに移動し、バター作り体験を行いました。初体験の方が多く、作り方の説明後、みんなで一斉にバターの原料が入っている容器をシェイク、シェイク。できたてのバターをパンにつけて食べることができました。自分で作ったバターは格別！とみなさん楽しみながら食べていました。

その後、大型バスに揺られ帰路につきました。2日間大きな事故もなく、思い思いに楽しみ、リフレッシュできたと思います。みなさんお疲れ様でした。(坪田)

レストランさきの 3万食達成！

この度、レストラン「さきの」は10月18日に、めでたく3万食を突破することができました。

3万食目の方は、オープン当初から、毎月メニューが変わるのを楽しみにご来店されている、常連さまでした。

記念セレモニーには、作業室からも利用者さんが駆け付けてくれ、手作りの横断幕と、くす玉でお祝いをしました。記念品として、ギャラリーの人気商品の詰め合わせとお食事券をプレゼントしました。他のお客さまからも盛大な拍手をいただきました。

その後、料理長特製のお祝いプリンが皆さんに振る舞われ、お店全体がお祝いムードに包まれました。

私達スタッフも喜ばしい気持ちでいっぱいです。これからも、ひとりでも多くのお客様にご来店いただけるように頑張っていきます。(入口・レストランスタッフ一同)



この様子は、長崎新聞でも紹介されましたが、レストランがオープンして来年で10年、「こんなところにお客様がわざわざ食事に来て下さるだろうか？」という当初の心配から、今では、予約がとりづらい時もあるくらいに。これも、レストランに来て下さるお客様のおかげです。では、そんな多くのお客さまに、何度でも来ていただくための努力をしている厨房とホールのスタッフの想いはどんなもののでしょうか。そこで、レストランを支えるスタッフのみなさんにお話を聞いてみました(*^_^*)



まず、メニュー決めから調理まで、全てをこなす泊料理長にインタビュー！
続けてきた上でのモットーは？

「一番大事にしているのは季節感。旬のものをいかに美味しく食べてもらうか、ですね」

とはいえ、配達弁当・給食もあるし、予算内で納めるよう食材を選ぶのは大変なのでは…？

「そうそう、だから最近の野菜の高騰とか困ることもあるけど、他で代用したり、盛り付けで工夫したり(笑)」

女性客が多い中、器遣いとスイーツがとくに好評のようですが…。

「ありがたいことだけど、どちらもコツがある。団体客が多いので全員分揃えられない時はわざと一人ずつ器を変えると、むしろお洒落になるんだよね。スイーツも作り置きのかき物、フレッシュな物と合わせ、味や食感のバリエーションやバランスを取ったりね」

なるほど。では一番励みになることは？

「お客様アンケートでリクエストをいただくほどのメニューが作れた時。それと、利用者さんの「おいしい」って声かな。先日みんなの掘った芋でスイートポテトを出したんだけど、めったに声を聞くことのない子が「おいしかった」って言うてくれたらしくて。あれは嬉しかったですよ。」

グリーン男子（植物好き）の料理長、最近の癒しは水槽のお魚です。利用者さんの癒しにもなっているようで、こまめにお世話をしてくれています。



一方で、お客様のアンケートでは、「ゆっくりできる雰囲気が好き」「ギャラリーの品々を見るのも楽しみ」「スタッフの感じがいい」などの声もいただいています。

おいしい食事はもちろんですが、レストランの良さはそれだけではありません。

そこで、利用者さんにも直撃！「厨房やホールで気を付けていることは？」

「配膳をきっちりとやるようにしています」「時間通りに作業が進むように、でも丁寧に、確実にやらないと。お皿はきれいに、しかも時間に間に合うように」「清潔さや身だしなみです。汚く見えないように気を付けています」「お客様に聞こえるよう、ハキハキ話すことです」「ドリンクのオーダーを取った後、カップなどのセッティングをするんだけど、数を間違えずに、素早くしなきゃです」「笑顔」「厨房の窓からでも、お店に来てくれたお客様に挨拶してます」「声のボリューム。大きすぎない、ちょうどいい声」

・・・などなど、次から次に教えてくれました。

「どうしたらお客様に喜ばれるか」をみんなそれぞれの持ち場で考え、見つけた課題に対し努力している様子が伺え、頼もしい限りです。

利用者さんと一緒に作業している厨房スタッフにも、お仕事の様子を尋ねてみました。

「利用者さんの方が気が利いていて、翌日のメニューをチェックして前日準備までしてくれます」「私の方が給食の数を間違えていて、指摘されたり(笑)支援員さんの方があたふたの時も(笑)」

「１０年間ではいろいろあったと思いますが・・・」

「たまに利用者さんの調子が今一つの時はあります。ただ、私たちも支援員ではないので、うまくフォローできているかはわからないけれど…長く一緒に作業していると、みんな我が子のような感覚なんですよ。落ち込んでいたらお茶を飲むよう声をかけてみたり、背中をさすってあげたり。なんとなく落ち着いてくれますよ」



↑ 厨房の狭い洗い場のすれ違いも慣れたもの

「数字に強い人はお弁当の計量も得意で、きっちりやってくれます。ご飯の盛り付けも、初めは難しかったんですが、今は任せておいて大丈夫です。最近、私たちの出番はないですね(笑)」

「洗い物担当と乾燥機担当の子たちが声を掛け合って、『どのお皿から先に仕上げるか』とか、工夫している様子も見られますし、こちらからお願いした仕事も、気持ちよく、手順よくやってくれますね」

「手が空いたら、『洗い物とかないですか』と、積極的に聞いてくれるので、とても助かっています」

厨房の中の事は私たちにはなかなか見えないので、こんなお話は嬉しいですね～(*^_^*)

また、利用者さんの指導・支援もしている、ホールスタッフにも話を聴いてみました。

“さきの” だからこそ、気を付けていることってありますか。

「スタッフの作業ルーティンを細かく分けて、分かりやすく、誰がどこまでするかをルール決めしているところは、普通のレストランよりきっちりしていると思います。本人さん含め、スタッフ全員が混乱せず、一連の流れがわかるように」

それも長年やってきて習得したことなんですね。それでも、失敗することはあるんじゃないでしょうか…。

「失敗は、私たちでも誰でもあります。利用者さんのお客様に対しての失敗には、責任者が真摯に対応しています。また、利用者さんの気持ちがこもっていると、多少の言葉の間違いなど、お客様は温かく見守って下さいますね」



↑ ホールの終礼で今日のふりかえり。ホールスタッフと支援員も入ります

微笑ましいと感じて下さるのですね。

「失敗があったり、出来ない時は、どこが原因だったかを考え、教え方・やり方を変えるようにしています」

それで、できるようになりますか。

「すぐできるようになることもあれば、時間がかかることもあります。でも、少しずつ、自信を重ねて、好きではなかった掃除まで丁寧に素早くできるようになるなど、長い目で見るといろんな面で成長していて、それが本当に嬉しいんです」



↑ ここで、レストラン、給食、弁当が作られています



↑ 今では緊張せず笑顔で自然に接客できるように

多くのお客様が「さきの」を訪れて下さっているのは、とても嬉しいことですが、お客様に「また来たい」と思っただけよう、厨房やホールで働くみなさんが、力を合わせてさまざまな努力や取組をしていることも、よくわかりました。「障がいがあっても地域でがんばる姿」を、これからもたくさんの方に見ていただけるよう、「さきの」を見守っていきましょう(^O^)/

育成会勉強会

～障がいのある人もない人も親亡き後の生活支援を考える～

11/20(日) 時津公民館講堂

第 1 部 「親の高齢化にそなえよう～子どもの生計と生活～」

講師：福岡市手をつなぐ育成会 理事長

全国手をつなぐ育成会権利擁護委員会委員 向井 公太氏

第 2 部 「障がいのある人(持つ人)の後見支援について

講師：NPO 法人市民後見人の会・ながさき 山口 佳英氏 下玉利 郁美氏

コーディネーター：同 NPO 法人 理事

時津町手をつなぐ育成会 会員 岸部 誠氏

時津町ふるさとづくり事業の助成を受けて、今回の勉強会は県外からの講師もお迎えして開催しました。育成会会員以外にも、民生委員さん、地域包括支援センターや社協の職員さん、近隣事業所の職員さんやご家族、特別支援学校保護者など、100名近いご参加がありました。

「親亡き後」は障がいのある人のいる家族にとって、最も心配なことの一つで、長く語られてきたテーマでもあります。向き合うことはとても難しく、そのままになってしまうのが現状のようです。

今回は、成年後見制度の利用により、障がいのあるご本人とその家族がどのような状況にあり、どんなお気持ちで生活されているのか、また、障がいのある方を支援されている市民後見人の活動の実態を詳細に教えていただき、家族が考えるべき将来の備えの参考になるよう、勉強しました。

第1部では、40代の息子さんの後見人をされている向井氏が、なぜ制度の利用に踏み切られたかというきっかけから、利用により慮られる息子さんの心情や、良かった事、考えさせられること、これから変えていかなくてはならないことなど、今後の課題についてもお話しされました。また、今回テキストとして配布していただいた「親と知的障がいのある子の高齢化に向けて 取組報告集」にも触れ、「親亡き後にも実効性のある、親がすべきこと5つ」を語られました。

第2部では、市民後見人のお二人から、60代の知的障がいの男性を、財産管理だけでなく、生活のあらゆる面で多角的に支援されている様子を伺いました。後見利用の申し立てをしてから、後見が始まるまでにどのような手続きがあり、どのくらいの時間や費用が掛かるのか、など、とても具体的なお話が聞けました。また、ご本人の意志を大切に、満足のいく生活を送れるように心を砕いておられることが随所から伝わり、手厚い支援に後見の印象が変わった方もいたようです。

質疑応答では、さらに様々な情報が得られました。

***** 参加された方の報告と感想 ～会員・岩本さん～ *****

初めて、勉強会に参加させていただきました。

以前から、ずっと気にしてはいたんですけど、いざとなると、まだまだ先の事だろうと思い、つい先送りになってしまい、親としては恥ずかしながら逃げてたように思います。

私の場合、いろんな問題事があり、周りに相談することもなく、一人で考え込んでしまっているのが現状です。時には「どうにかなるさ…」と開き直ってしまったり…。

でも今回、勉強会に参加させていただき、親としての責任を痛感しています。やはり、親が亡くなってからは、周りの状況も一変するだろうし、今、元気なうちに、子どもの生育歴や希望等についても記録を残すことは、大事だと思いました。

それと、一人で悩まず、これからは、いろんな制度についても勉強し、成年後見制度についても真剣に考えてみたいと思いました。

